

第5学年国語科「読み継がれてきた名作は、なぜ人を惹き付けるのか ～『注文の多い料理店』～」

学習指導者 岡根 平

「自分が見つけた物語の面白さを解説して伝えよう」という単元のゴールに向けて、子供たちと一緒に必要な学習を考え、学習計画（面白さ追究マップ）を作成しました。また、毎時間考えたことや分かったことも併せてマップに蓄積していくことで、「本時分かったことを振り返り、学習計画を基に、次にどんな学習が必要か考える」という、課題を設定する方法を身に付けさせました。

「展開」場面にある面白さを生み出している表現を見付けよう

【見通し】

面白さ追究マップを確認し、前時設定した本時の課題



をペアで確認しました。その際、課題設定の理由を問い、単元のゴールを意識させ、本時の課題解決の価値を感じられるようにしました。課題設定後、本時の活動時間を自分たちで設定しました。前時設定した時間を示し、その妥当性を振り返らせることで、より適切な時間を設定できるようにしました。

【行動】

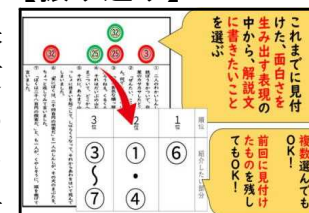
面白さを生む表現を見付ける際には、「人物の性格や考え方が分かる表現」「隠れた意味が分かる表現」「音や様子が分かる表現」の三つの視点を基に叙述を探しました。教具は紙媒体のものとデジタルの両方を用意し、自ら学びやすい方法を選択して学習を進めました。

自力解決後は、見つけた表現をグループの友達と交流しました。自分の出席番号を書き、視点毎に色分けしたシールをそれぞれが見つけた文章に貼り合うことで、互いの考えの異同を視覚的に捉えられるようにしました。交流により、自分が見付けていない表現や、違う面白さを感じられる表現など、多様な叙述を基に考えを広げることができました。



【振り返り】

次の課題を設定するための方法を想起させ



た後、本時の学びを捉えるために、グループや全体で交流したことを基に、現時点で自分が解説文で紹介したい表現をランキングにまとめました。その後、設定した活動時間や計画を振り返り、単元のゴールの達成に向けて次に必要なことについてマップを基にペアで話し合うことで次時の課題を設定しました。

成果と課題

○表現を見付ける際の視点を色分けし共通理解しておくとともに、自分の考えを広げるためにどんなシールについて意見を聞けばよいのかを交流前に確認しておくことで、班で話し合う際、考えの異同に着目しながら友達と交流できていた。

▲「課題が解決できた」という規準が子供にとって分かりにくかった。自分なりに表現を見つけた、もしくは交流によって考えが広がった、など、はっきり示すことで、次の時間に本当に必要な課題を考えることができたのではないかと。